働けど、働けど……

暮らしの近況について思うこと

手記

主婦会三川　斉藤清子

民主主義日本の国会では、またまた大混乱の中で酒・タバコの値上げ法案が、自民党によって強行採決されました。

そのほかなお郵便料金値上げ法案や、赤字国債特別法案等々、自民党にとっては大事な法案がのこされているので、彼らは二十六日間の会期延長を強行しました。自民党はこうしてまでも、汗水流して働く労働者が疲れをいやすための一杯の酒、一本のタバコまでも奪おうとしています。

戦後三十年、世の中は平和そのものに見えますが、私たちの身のまわりはどうでしょうか。長年自民党が推し進めてきた経済高度成長政策に依り、元来働き者の日本国民はドレイのように働かされました。

「貧乏人は麦飯を食え」と言われながら、労働者は力一杯働き、世界中に工業国日本の名を高めました。

その、一番の功労者であるはずの労働者は、ささやかな楽しみである酒、タバコずら買えなくなります。それればかりではなく、資本家は日本全国に公害までもまき散らしました。

それによって一方の資本家たちは肥え太り、自分たちの息のかかった人達を国会におくり込み、大資本優先の政策を進めました。

先日パリーに於いて六カ国首脳会談が開かれ、わが国からは三木首相も出席しました。そのときの様子がテレビニュースに写し出されましたが、三木首相の、なんと見劣りのするものだったか。まるでゴリラばかりの中に日本猿が一匹すわっているようで、一人まえに扱われているようには見えませんでした。

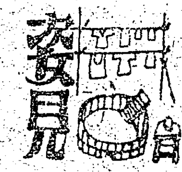
その首相の帰国第一声が、なんと「値上げ法案の成立に全力を尽す」でした。あきれ果てた首相です。

私たち労働者は、マスコミにだまされないようにして、自分のしあわせは自分でつかみとる覚悟を固めなければならないと思います。

ひつきりなしに新港道路を走りまわる、恐ろしいダンプ。これからますますふえてゆくことだろう。

反省

主婦会小鳩　一主婦会員



炭婦協、三池主婦会結成から早や二十年とか。

私が結婚して三池主婦会に入会したのは、昭和三十年の暮れ。主婦会もまだ生まれて、ほやほやのヒナでした。

独り身時代に自治会に入会。そして退めてほっとしていたところだったから、主婦会に入会したくなかったのです。

それでも入会こそしたものの、次から次と子どもが四人もできて、名のみの主婦会員でありました。

三十五年の三池闘争では、大きなお腹をかかえた体に次男をオンブ。御飯たきなどの手伝いで少しは頑張りました。

社会党の党首の片山さんの総理時代は、一万円生活も楽でしたが、その後たたかいが打ちつづき、座り込みに行く組合員のためのおにぎりづくり。おかずをたいて、漬ものを入れて、スト中の家の食べものはその残りでした。社会党の党首の総理がこの世から消え、自民党党首の総理時代になると、一年、二年、十年と物価高になり、生活しにくくなってゆきました。

生協が出来ました。使いなれた品物でも安いものは、生協を利用することが出来て、便利になりました。

三池主婦会に入会して早や二十年。

子供も大きくなり、まわり番こではあるが初めて、主婦会の分会長をして居ます。

私の小さい時、母親は村の婦人会長をしていて隣りの町までも出かけて行くのを見ていたので、自分も[illegible]ってやれないことはない、と思っていたが、思う様にはできないものです。

十月の分会長会議の時のことでした。生協活動のことが議題になったのです。

私は生協の品物を毎月買っているが、町内のほとんどの主婦が内職に出かけていて、何となくせわしいので、ショッピングに出かけては特価品を買いためるのが普通だ、とびうのですね。

私もボーナスで、次のボーナスまで不自由しないくらいの分まで、買い求めておきました。

このように今日までの考えでは、生協物品の販売はむずかしいと感じていました。

でもこれからはまず、主婦会員一人ひとりが自分から一品づつでも生協の品物を買い求めて、今まで買ってきた品物と比べていい点を早く見つけ、新労組の方にも使用して戴くようにする。そうしてこそ、生協の真の良さとともに、三池労組員と主婦会員が、どんな差別にも耐えて来たことが、わかってもらえるでしょう。

とにかく生協の物品の良さを知って戴くには、主婦会員自身がその良さを知らなければならないと思うのです。

×

ほかにもご投稿をいただいております。次号に紹介いたしますので、しばらくお待ちください。

編集部

こんなおばあちゃんに私はなりたい

詩

主婦会新港町　大久保信

不自由だ不自由だ　と
老婆はいう
新しいベッドの側で
塗料のにおいが脳のシンまでゆさぶる
今までは老婆は一人
ポツンと手仕事を楽しんでいたのに —
白い館では
少女と中年女二人の中で
老婆は聞えぬ耳の悲しさを訴える
でも切手のコレクションや糸手マリづくりのあざやかさ
老婆の目は輝いている
若者達はため息をつく
八十八歳、八十八歳と繰り返して
そこには二十歳（はたち）の乙女を見る様に
「私もこんなおばあちゃんになりたい」
三人の女は口を揃えていう

新港町道路の安全確保のたたかい

問題残した市の対策

有明炭輸送で危険増大

諏訪川尻校区住民協議会（古沢栄一議長）の、「諏訪橋—新港町間の道路の安全確保」をめざすたたかいは、大牟田市や警察への要請行動を伴いながら広がり、かなりの点で、市の前進した対策をひき出したが、今はその対策をさらに充実させ、真に具体的な手が伸びてくるかどうか、監視してゆくことになった。

そのような経過の上にたって見ると、基本的に重要なことは、やはり何といっても有明炭鉱の本格的採炭開始にともなう、石炭の陸上輸送量の今以上の増加で、その石炭を運ぶダンプの唯一の運搬道路となる諏訪橋—新港町間は、市のあらゆる安全対策を通り越していっそう危険度が増大する結果となることは必至で、問題はこれからだということになる。

十一月八日のこと、諏訪川尻校区住民協議会の古沢議長のもとえ大牟田市の民生課長ら二人がやってきて、①十日から、時間的にダンプの試走をする。そのとき実際に監視人を立てて、ダンプをチェックする。本格的輸送開始は、事前に協議する。②炭じんなど、すぐということではないが道路清掃に常に心がけてゆく——などの申し入れを行ってきた。

この申し入れは、こととしだいでは市の対策もふみにじりかねないおそれがあり、同協議会はいっそう監視の目を光らしている。

すでに人間の命をのみこんだ同道路のこと、表面的な対策で処理されるようなことは絶対に許されるべきではない。

▽

△

菊薫る日に思う

短歌

遺族　片桐政子

子を護る母なればこそ強く生き夜更けて綴る日記涙に
事故のあと弱き体に鞭うちて働く吾に生きる力を
制服に秘めたる想いしみのあと夫を偲びて今日も糸繰る
菊薫る今日命日の十三回忌はげます遺影吾を見守る

×

片桐さんのお住いは、「兵庫県西宮市枝川町五番、浜甲子園団地三一号館三の一号室」です。

絶対許せぬ——電灯料金の値上げ

四山指導部　宮崎勝

三井鉱山は電力会社の電気料金値上げを理由に、十一月一日から社宅の電灯料金を五〇%値上げすると、組合に提案してきました。

いままで（夏場は四十五キロワット、冬場は六十キロワットまで無料）の会社負担はそのまま動かさずに、超過分に対する料金を大きく取ろうというのです。このような一方的な電灯料金値上げが、私たちの家計をますます苦しめることはもちろんです。

考えますと、今年の賃上げも、掘れば掘るだけ売れるという石炭見直しの状況下で、日額わずか五百六十円（一五%）でありました。他方、物価は一五%を上まわる上昇率を示しておりますから、そこへ電灯料金値上げですからまさに賃金の切り下げであり、許すことができません。

さらに私たちが居住している社宅は、明治・大正、それに昭和の初期に三井が建てたもので、すでに家は傾むき、腐蝕が目立っています。夏場は熱く、冬になればすき間風で冷えこみ、人間らしく生きることはむずかしく、子供たちは「母ちゃん、うちは寒かバイ」と非難しています。

私の家族は、私たち夫婦に、高校生二人、小学生一人という三人の子供を加え五人です。

私の賃金は、一カ月営々と働いて、手取りわずか九万円程度で、親子五人がやっと食ってゆくものでしかないのです。

でもすき間風だらけの社宅ではたとえ収入がどんなに少くでも、暖房器具の購入は不可欠です。

それに長くつづいている自民党政治は、独占利潤の獲得に奉仕するためとはいえ、テレビ、洗濯機、冷蔵庫、冷暖房器具などの耐久資材を買わねばならない、世の中の仕組みをつくりだしており、これまた各家庭はたとえどんなに収入が少くても、これらを買わされているのです。したがって、電灯料金の五〇%値上げ提案は、私たちにとって重大問題だといわなければなりません。

私たちは常に反合理化・反独占の視点をもって、闘いをすすめてきましたが、それを七六春闘への資本の前段攻撃としてとらえ、一方的な電灯料金値上げ提案に反対していかねばなりません。

そのためには、職場での不当な人間無視の生産第一主義を追及し、地域では福利厚生の具体的な取り組みを強め、スト権をかけても闘いをすすめましょう。